

21. 除草剤の合理的な使用方法

1 試験担当者

造林部長：加藤善忠

造林部除草剤研究室：真部辰夫 ほか

北海道支場造林第2研究室：豊岡 洪 ほか

東北支場 育林第2研究室：加藤亮助 ほか

関西支場 造林研究室：早稻田収 ほか

四国支場 造林研究室：安藤 貴 ほか

九州支場 育林第2研究室：尾方信夫 ほか

2 試験目的

塩素酸ソーダ系除草剤は、林地で最も多く使用されている除草剤であり、最近ヘリコプターによる散布面積が急増しているが、林地での環境に応じて適確に使用の指針を与える使用基準をたてるまでにはいたつていない。

本試験は、国有林の協力をえて、全国的規模で実際の散布例からの資料を集約し、統計処理によつて種々の因子と殺草効果との関係を究明し、除草剤使用の合理化に役立てようとするものである。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

殺草効果に影響を与えるとみなされる因子をもうらするような試験地をササの種類別に全国的に設置する計画であつたが、43年度は一部の営林局を除き、全般に試験地の設定がおくれ、実質的には44年度から実行する段階である。

43年度は、調査カードおよび調査要領の作成を行なつた。

4 昭和44年度試験計画

1 試験地の環境因子、データーの信ぴよう性

土壤因子および植生因子は1か所の代表地でデータをとるが、これが試験地を代表しうるか、どうかを近隣の試験地について、因子の変動量を調査する。

2 計数処理上の問題として、出てきたデータからアイテムカテゴリーとして何を選定すれば最も効果的に分析できるかを検討し統計処理する。